

II. 令和6年度の事業内容につて

※複数事業を実施する場合は、下表を1事業ごとに作成すること。

| | | | |
|-----|---|--|----|
| (1) | 補助対象事業分類 | 3.新たな需要の開拓に寄与する事業 | |
| (2) | 事業名 | 最新デジタル技術活用型展示会「バーチャルモール」出展 | 事業 |
| (3) | 補助対象経費 | 〇〇〇〇 | 円 |
| (4) | <p>経営発達支援計画に記載されている令和6年度目標（当事業に関する目標のみ記載）</p> <p>経営発達支援計画に当事業に関する目標が記載されていない場合は、「認定時の審査委員のコメント」または、「事業評価委員会での議事録等」の該当箇所を記載すること。</p> | ※各会議所の経営発達支援計画について記載 | |
| (5) | 事業の目的 | <p>※参考</p> <p>わが地域に根ざすモノづくり企業の大半を占める小規模事業者において、今や地域経済の発展のために不可欠であるはずの「DX化」の遅れは大変な危機的状況にある。さらには小規模事業者の恒久的な課題である企業/商品の「情報発信基盤の脆弱さ」もあり、近年目まぐるしく変化する事業環境への対応が急務となっている。</p> <p>その課題に対する解決策の実証実験の場（単独企業では構築が困難なDXやワンストップサービスを組合わせた展示会）である最新デジタル技術活用型展示会「バーチャルモール」（主催：鯖江商工会議所）へ出展し、地域のモノづくり小規模事業者を招致。出展後の成果検証や成功体験を通して、自己変革（自走化）ができる企業づくりを支援する。更には各々企業が認識した課題や得られた成果の横展開を通じて、より多くの事業者の課題発掘・解決の機会を設け、わが地域の小規模事業者全体の事業再活性化に資することを本事業の目的とする。</p> | |

| | |
|--|---|
| <p>(6) 事業の内容 ※補助対象事業分類： 「3. 新たな需要の開拓に寄与する事業」を実施する場合は、事業者の経営状況の分析内容及び事業計画策定・実行支援内容を踏まえた展示会・商談会、広報媒体等の選定理由を必ず記載すること</p> | <p>※参考</p> <p>最新デジタル技術活用型展示会“バーチャルモールJ”（主催：鯖江商工会議所）に出展、参加企業を招致する。具体的内容は以下の通り。</p> <p>【開催期間】 令和6年11月1日～令和7年1月31日</p> <p>【内容】 [オンライン展示会（バーチャルモール）] メイン事業。CGで制作した仮想空間に参加企業のメイン商品をカテゴリーで集約したバーチャルモールにより「リアルさながらの現場体験」を提供する。来場者は仮想空間内で企業情報を得るだけでなく、商品閲覧・購入もできる仕組みとし、企業理解・販路開拓に大きく資することができる。更に越境EC(後述)とのリンク機能も有し、海外展開も含めた包括的な販路開拓支援を行う。</p> <p>また、新たな需要の開拓に向けた堅固なものづくり発信拠点の構築を目的として、参加企業には以下の3つのサービスを伴走型で提供する。</p> <p><input type="checkbox"/>越境ECへの参加 海外販売に向けた出品から販売までをワンストップで支援するサービスを提供。越境EC会社が輸出作業、貿易手続、代金回収まで全て代行するため、企業は国内取引と変わらない作業で低予算にて海外の一般消費者／小売店に販売できる。これは昨今において重要性を増している「海外展開」を行う上での足枷となっている、時間、人員、費用、貿易実務、言語、為替および決済等、全てを解決し、海外販路開拓の第一歩を支援する事業である。</p> <p><input type="checkbox"/>インナービュー制作 特殊カメラにより支援企業の店舗・工場等の高解像度3D映像を製作。閲覧者(消費者)は来店せずともリアルさながらの臨場感を体験できるだけでなく、企業情報や商品の閲覧／購入もできる仕組みとし、企業の円滑な販路開拓を促していく。 また、上記越境ECとのリンク機能も有し、円滑な海外販路開拓に向けた相乗効果を図る。</p> <p><input type="checkbox"/>顔認証サービスへの登録 AI・AR技術を用いた顔認証／物体認証による消費者への新しいプロモーション・マーケティング手法を提供する。これにより、消費者がただ購入するだけでなく「知る体験」を組み込むことができる。具体的には、スマートフォンなどのカメラ機能で製作者の顔写真や商品をスキャンすることで、製作者の思いやプロフィール、企業情報が表示される。さらにここでも上記越境ECにリンクしており、更なる相乗効果を図ることができる。</p> <p>これら複数の事業は各々が独立したものではなく、上記の通り互いにリンクしており、企業のDX化・自走化推進を通じ「企業の経営再構築」を図るための総合支援事業である。</p> <p>【招致対象者】 市内モノづくり小規模事業者</p> <p>【開催周知】 当会議所会報、HP、公式SNS等にて周知</p> |
|--|---|

| | | |
|-----|---------------------------------|---|
| | | |
| (7) | 伴走型補助事業における実施目標件数または者数（アウトプット） | <p>※参考</p> <p>小規模事業者の招致〇〇社を目標とする。</p> |
| (8) | 伴走型補助事業における成果目標（アウトカム）及び成果の測定方法 | <p>※参考</p> <p>□成果目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示会出展企業の商談数…1社〇〇件×〇〇社⇒目標〇〇〇件 ・新規販路開拓件数…1社〇〇件×〇〇社⇒目標〇〇〇件 ・受注数(額)…前年同期比〇〇%増 <p>□調査方法</p> <p>アンケートおよびヒアリング（口頭、オンライン、紙面）</p> |
| (9) | 成果目標の設定根拠 | <p>※参考</p> <p>〇〇年に行われた展示会イベントの実績を参考に本イベントの成果目標を掲げた。</p> <p>◆〇〇年開催 〇〇展示会</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇〇社出展 総来場数約〇〇〇人（オンライン含む） 各社平均商談数〇件 |